

【With コロナ】

BCP、DR 対策の見直しは終わりましたか？

感染症や災害から会社を救うデータセンター活用方法！

With コロナ時代に企業が行うべき、レプリケーションを用いた BCP 対策のご紹介！

日本では新型コロナウイルスの勢いが再び増しており、日本の感染者の合計が7万人を超えようとしています。

現在のような With コロナ時代では企業成長の為に十分にコロナウイルス対策をし、経済活動を継続させることが重要となります。

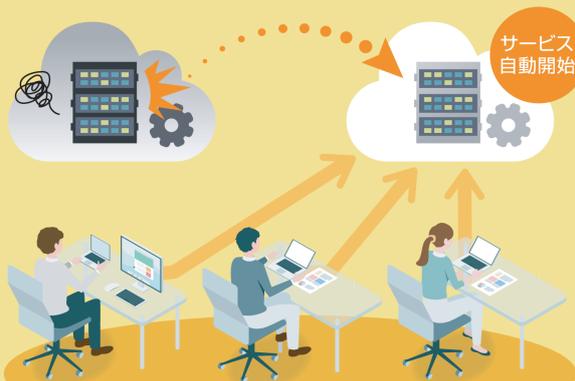
本記事は企業としてコロナウイルス等の感染症や地震や台風などの自然災害と向き合っていくために、情報システム部門（以下情シス）の方にチェックしていただきたい内容です。

情シスの方は現在テレワークをすることができていますでしょうか。

サーバの管理、運用をされており、何かあった時の為に、常に会社になくはない状況で、満身にテレワーク出来ない方もいらっしゃると思います。もしもあなたがコロナウイルス等の感染症に感染してしまい、入院中、

サーバに障害が発生してしまったら以下のような業務の停止を招く可能性が考えられます。

- ・基幹システム→社内業務全般の停止。
- ・生産管理システム→原料の仕入れや原価計算ができず、製品の製造が停止。
- ・販売管理システム→営業部隊がビジネスチャンスを逃す。販売機会の損失。

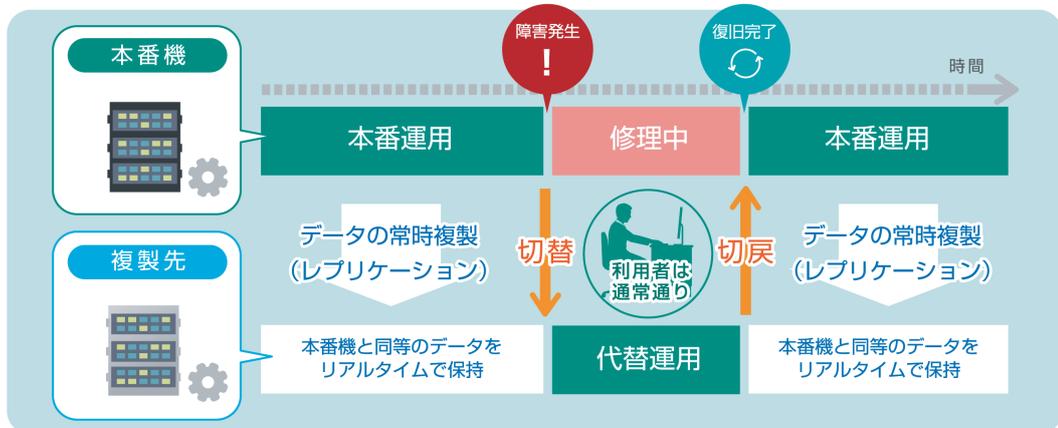
レプリケーションで
障害発生時には
接続先を自動切替

普段と同じ操作

サーバも1つの機械であるため物理的に故障してしまう場合があります。特に24時間連続稼働のサーバは常に熱を帯びているため各パーツが劣化しやすく故障の原因となります。そのようなことが無いように、データセンターを活用し、サーバをレプリケーションされてみませんか？

対象サーバの複製をデータセンターに設置しデータを常時複製しておくことで、もしもあなたが不在の時、本番機に不具合が発生しても、瞬時に接続を複製先に切り替えることで、被害を最小限に抑えることができます。

一方、レプリケーションのデメリットとしてサーバを一台用意するわけですから、運用コストがかかることが挙げられます。弊社はデータセンター事業を筆頭に、ネットワークや様々なITインフラサービスをお客様へご提供しております。そこで、弊社にご相談いただければ、レプリケーションの範囲を限定することで、ご予算に合わせてコストダウンすることも可能です。



興味を持たれた方は以下お問い合わせフォームよりご連絡頂ければ幸いです。今回の新型コロナウイルス感染症の影響でテレワークの環境を急遽用意された方や、見直された方は多いと思います。更にBCP対策を見直し、次に起きるかもしれない感染症や災害に十分に備えましょう！

<https://www.dsk-idc.jp>